

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000661
法人名	有限会社あかつき
事業所名	グループホームあかつき
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南18073番地1 (電話) 0983-47-0860
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号
訪問調査日	平成20年7月17日(木)

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い平野の田畑の中に平屋のホームが建っている。ホーム内部はゆったりとしたスペースがありケアへの思いが感じられる雰囲気を醸している。ペットである小型犬が賑やかに迎えてくれた。ホームの第一印象としては全体的に落ち着いた感じの中で職員と利用者の穏やかで明るい関係性を見る思いがあった。より良きケアへの管理者の熱意が職員へも浸透し利用者のQOLの向上や地域との関係を深める努力が続けられている。

## 【重点項目への取組状況】

### 【情報提供票より】(平成20年6月20日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年9月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤9人, 非常勤6人, 常勤換算6人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	1階建ての ~1 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		840 円	

#### (4) 利用者の概要(平成20年6月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3	要介護2	5		
要介護3	8	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85 歳	最低 71 歳	最高 99 歳		

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高嶋医院、川南病院
---------	-----------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で課題となった項目が12項目あり改善済みが4項目、鋭意取り組みを進めている項目が6項目、運営者の指導力に期待しつつ実施が遅れている事項が2項目であった。管理者の力の及ぶ限りの努力を継続して実施しているところである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員間で分担して作成し、これを研修材料として活用し意識改革へつなげている。一部設問への解釈に懸念のある項目もみられたが、これは次回への期待項目にしたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年3回の実施が現実的には適当であるとし、内容はグループホームへの地域の理解の拡がりにつながる努力をしている。地域や行政との連携・相談もしやすくなり運営推進会議の意義を実感している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回の家族会や家族来訪の機会をとらえての意見収集の努力を継続している。ホーム運営、行事への参加など家族の協力・参加が行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区会へ加入しており、近隣のお寺の祭りに行ったり、地区の運動会へ見学に行ったりすることで地域との交流の努力を継続している。今後もさらに交流を深める工夫を重ねる意向である。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームとしての理念をつくりスタッフの目に付く場所に掲げており、入居時には家族にも説明している。	○	理念はしっかり作られているが項目として6件あり「一言で」の表現が難しい。現状の理念を総合的に表現できるキャッチフレーズのような文言を加えることを工夫されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が理念の根底にある考え方である「人間としての尊厳」について話をするなど理念の共有、実践への反映に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区会へ参加しており、近隣のお寺の祭りに行ったり、地区の運動会の見学に行くなど地区との交流を図るべく取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者の積極的な関わりを基本とし、管理者・職員と共に改善に向けた取り組みが求められる。管理者・職員は昨年の評価の反省や改善に取り組み、また、今年度の自己評価も全員で考えながら作成した。ただ運営者の参画意識が若干気がかりであった。	○	自己評価を全員で作成する姿勢は歓迎できるが、一部設問への解釈で懸念ある項目が散見された。「サービス評価ガイドブック」を入手し全員で研修することを期待したい。

宮崎県川南町 グループホームあかつき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年3回の実施が適当として定期的に行われ、行政・地区の方々・家族が真剣に取り組みされており、その存在意義を強く感じている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での交流もあり、行政と相談しやすくなり機会も増えた。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3～4か月ごとに「施設たより」を発行し利用者の暮らしぶりや、行事また職員の紹介などを行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や家族の来訪の折に意見や苦情を聞きだすように努めている。信頼関係の強化をさらに目指す努力をする意向である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者の意思の確認はできなかったが、グループホームとしては2ユニットであることを活用するなど異動によるダメージを少なくする工夫はなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修会や町主催の地域リハビリテーション研修に職員を交代で参加させている。また、管理者は研修の年間計画を作成している。	○	研修の復命書や勉強会の資料あるいはマニュアル等の資料類が、「系統だったファイル化」がなされておらず情報の共有化に不十分な部分が見られる。資料類の系統だったファイル化とその活用が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場を中心に地域のグループホームの交流ネットワークが機能し、持ち回りの研修が継続的に行われている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一例として「せん妄」のある利用者の入居の際に家族や関係者・職員などの協力によって「落ち着いた生活」を取り戻したことなどの実例があった。事業所としての工夫が感じられた。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者それぞれの生活歴の中から「仕事や生活経験」を聞くことで職員の学びや成長につながっているようである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	病状的に難しい面も多いが、できるだけ本人の思いや希望を引き出す努力を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては可能な限り情報収集を行い、作成後はケースカンファレンスを実施し情報の共有化を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者それぞれに担当職員が決まっており、その職員の記録などを参照しながら月に1回の頻度で計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでのケアの限界を見極めながら、可能な限り外出・外泊等の機会づくりへの支援を家族との話し合いを基に柔軟に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけかかりつけ医にかかるようにしており、受診時には家族への連絡を密に行っている。急激な状態変化の折には受診に同行をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	具体的に家族と終末期のあり方を話し合ったことはないが、今後の見通し等を話し合うケース会議をもち記録している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損なわないような声かけや丁寧な対応をしている。	○	個人情報の取り扱いに関する規約等の掲示がみられなかった。規約を作り掲示することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を尊重し、押しつけがないよう声かけや見守りをしながらレクリエーションや日常活動を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じて野菜の選別や皮むき、食後の片づけ・食器洗いなど一緒にやっている。食事は職員も同じものを食べながら見守りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を見ながら2日に1回の入浴と入浴しない日は清拭をしている。入浴の無理強いはしない。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望や好みに応じてできる範囲の役割分担をしてもらっている。例えば手すり拭きなど。また、全員総出で娯楽施設へ遊びに行き食事や温泉を楽しんだこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や体調、本人の意思を聞き散歩に行ったり、買い物に行ったりしている。年に数回は花見ドライブや外食などの支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出は入り口には鍵を掛けておらず、鍵を掛けないケアを行っている。はいかいがある場合には1号館と2号館を通したろうかなどを使い、落ち着きを取り戻すようにしている。		

宮崎県川南町 グループホームあかつき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員・利用者と避難訓練を行い、火災報知器の扱い方、誘導の仕方を学んでいる。	○	夜間における災害への対応がなされていないが、その一環として「夜間呼び出し訓練」などを行ってみるなどの工夫を期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時摂取量の記録を取っているが、残量がある場合は声かけ介助などで完食を勧めている。水分摂取にも心配りをしている。栄養バランスやカロリーの目安が得られる書物入手し、献立の参考にしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には派手な飾りはなく簡素ではあるが、季節感を感じるものを作成し飾っている。全体的に落ち着きのあるたたずまいである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見た目には質素であるが、利用者の好みに応じた調度品や写真・賞状などで、それぞれの生活観を出し居心地の良さに対する工夫が感じられる。		

※  は、重点項目。